



あか はね ぼきん かね つか 赤い羽根募金のお金はどう使われるの

しあわ ふくしかつどう 幸せになるための福祉活動に

あか はね ぼきん あつ ぜんこく やく まんにん ひと かつどう
赤い羽根募金を集めるために、全国で約200万人の人たちがボランティア活動をして
いますが、^{ぼきん かつどう}募金活動には、^{が いてう ぼきん}「街頭募金」^{ふうとう ぼきん}「封筒募金」^{あき かん ぼきん}「あきかん募金」などがあります。
こうして集められたお金は、^{あつ}幸せになるための^{かね}福祉活動^{しあわ}に使われます。

からだ ふじゆう ひと とし こ 体の不自由な人や、お年より、子どものために

ぼきん う からだ ふじゆう てあし ふじゆう ひと びょうき
募金は生まれつき体の不自由な人、けがをして手足が不自由になってしまった人、病気で
^ね寝たきりの^{とし}お年よりや、^{おや}親がいなくてひとりでは^{せいかつ}生活^こができない^{つか}子どもたち^{つか}などのために使
われます。また、^{りょうしん}両親^こがい^{しせつ}ない^{からだ}子ども^{ふじゆう}たちの^こ施設^{しせつ}や、^こ体が^{しせつ}不自由な^こ子ども^{しせつ}たちがいる^{しせつ}施設^{しせつ}に
も^{とど}届け^こられます。このほか、^{あそ ば}子ども^{せいび}の遊び場^{しせつ}の整備^{とし}や、^{てがみ}施設^かにいる^かお年^かより^かに^か手紙^かを書^かいた
り、^{かてい ほうもん}家庭訪問^{かつどう}をしたりする^{やくだ}活動^{やくだ}にも役立^{やくだ}てられています。(監修・保岡 孝之)

